

## 社会科学研究所 定例研究会 報告要旨

2010年12月9日(木) 定例研究会報告

テーマ： アメリカ労働組合運動の動向

報告者： Dr. John S. Gaal

(全米建設労組セントルイス地協部長／ウェブスター大学兼任教授)

時間： 17:00-19:30

場所： 社会科学研究所会議室

参加者数： 11名

報告内容概略：

まずアメリカ労働運動史の概要について報告がなされた。1920年代までの資本専制・労働者無権利状態が、ニューディールによる労働立法と第二次世界大戦の経済的影響により劇的に変化し、労働者優位の労使関係が形成された。しかしそうした情勢の下で1940年代後半に労働争議が激発したことで、再び保守派による巻き返しが生じ、タフトハートレー労働法制によって経営側優位の労使関係が再び現出した。

その上で今日的情勢について報告された。2009年のオバマ民主党政権の誕生と民主党多数議会の成立で、労働組合の組織化を劇的に容易化する労働法制E F C A成立への期待が高まり、労使関係制度が経営優位から中立的なものへと変化する見通しが生じたが、2010年中間選挙における共和党の大勝により、その期待は遠のいた。そうした厳しい状況の下ではあるが、例えばセントルイス建設労組による州政府や地域社会と連携した職業教育システム再構築の試みなど、新たな模索も生まれている。

記：専修大学経済学部・兵頭淳史